

特集

昭和100年 道路から振り返る

令和7年は、昭和の年号で数えると100年の節目の年にあたる。

本特集は、この100年における道路整備の変遷を振り返りつつ、今も残る土木遺産などを紹介する。

はじめに基調レポートとして、北海道大学名誉教授で、本誌『北の交差点』のチーフアドバイザーでもある加賀屋 誠一 氏に、北海道における道路整備の歴史と今後の展望についてご寄稿いただいた。

また、国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部 旭川道路事務所 第1工務課長 辻 雅章 氏と、旭川開発建設部 道路整備保全課 課長補佐 中村 智 氏には、北海道3大名橋の一つで、道内で最も古い鋼道路橋である旭橋の生い立ちと現在における役割についてお話を伺った。

そして、北海道渡島総合振興局 函館建設管理部 事業課 技師 佐藤 稜斗 氏と、同 事業室事業課 主事 林 朋哉 氏には、海岸線まで迫る絶壁の岩盤を手掘りでくり抜いたトンネル群「日浦洞門」を有する道道函館恵山線について、当該路線が人々の暮らしと共に歩み続けた歴史や道路維持の現状などについてご紹介いただいた。

今号では100年間の出来事をすべて振り返ることは難しいことから、限られたトピックを取り上げたにすぎない。

令和の今は先人が作り上げてきたインフラを上手に維持し、活用する時代になりつつあるが、改めてこれまでの100年とこれからの100年を考えるきっかけになれば幸いである。

基調レポート

北海道の昭和100年の道路整備を振り返る

国立大学法人 北海道大学 名誉教授 加賀屋 誠一 氏

インタビュー1

旭川の産業と生活を支えて90余年 まちのシンボルとして親しまれてきた国道40号「旭橋」

国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部 旭川道路事務所 第1工務課長 辻 雅章 氏
国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部 道路整備保全課 課長補佐 中村 智 氏

インタビュー2

海岸線に7つのトンネルが連続する絶景の道 自然の脅威に立ち向かい人々の生活を支えてきた 道道函館恵山線

北海道渡島総合振興局 函館建設管理部 事業課 技師 佐藤 稜斗 氏
北海道渡島総合振興局 函館建設管理部 事業室事業課 主事 林 朋哉 氏

